教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 景観建築学科　　資格： 教授　　氏名： 杉浦　徳利

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画、デザイン科学、感性工学	デザインプロセス、機械学習、空間構成、空間図式、居住空間構成法
学位	最終学歴
博士（工学），工学修士，工学士	京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.建築設計演習課題の更新と改善	2017年5月から現在	下記の設計演習課題において、設計案の検討手法を見直し、より創造的・先進的な検討手法に改善した。 (1)学部３年の建築設計演習III課題3「リゾートホテル」において、学生各自が油粘土を用いて理想の敷地地形を創出する方法を提案・採用 (2)大学院修士課程1年の建築設計総合演習I課題3「膜構造による空間構築」において、3次元モデリングソフト「ライノセラス」とそのプラグインソフト「グラスホッパー」を活用し、コンピュータ上の仮想3Dモデルを用いて複雑な膜構造の形態をパラメトリックに検討する方法を採用
2.大学院の論文・設計指導および題目（2016年度）	2016年8月から2017年3月	2016年度　修士設計指導(2名) 題目 ・「Boundless Curves ～逆吊り模型実験によるカテナリー曲線の教会～」 ・「自昇式パンタドーム構法による折板ドーム」
3.大学院の論文・設計指導および題目（2015年度）	2015年8月から2016年3月	2015年度　修士設計指導(1名) 題目「然り渾ざる －築200年の古民家再生－」
4.大学院の論文・設計指導および題目（2014年度）	2014年8月から2015年3月	2014年度　修士設計指導(3名)、修士論文指導(1名) 題目 ・「Narita Airport LCC Terminal　－拡張可能な空港－」（設計） ・「クロントイ・スラムの居住環境改善計画　－シザーズ型展開構造を用いて－」（設計） ・「光と影の教会　－紙管パネルを用いて－」（設計） ・「書架配置と図書のブラウジングに関する研究」（論文）
5.大学院の論文・設計指導および題目（2013年度）	2013年8月から2014年3月	2013年度　修士設計指導(2名) 題目 ・「生きる建築　-私の家族が暮らす家-」 ・「coloring homes -住み熟し自在なすまいが彩る暮らしとまち-」
6.大学院の論文・設計指導および題目（2012年度）	2012年8月から2013年3月	2012年度　修士設計指導(1名)、修士論文指導(3名) 題目 ・「祭礼都市 -有馬温泉における祭礼空間の提案-」（設計） ・「三陸沿岸部の津波防災に関する史的考察」（論文） ・「形状及び明るさの異なる二空間を通り抜ける際の開放感に関する研究」（論文） ・「建築仕上げ材が空間に与える印象に関する研究 -旧甲子園ホテルを対象として-」（論文）
7.大学院の論文・設計指導および題目（2011年度）	2011年8月から2012年3月	2011年度　修士設計指導(2名)、修士論文指導(2名) 題目 ・「音楽ホールのある複合文化施設　清荒神参道の活性化」（設計） ・「風土の記憶／集落の姿　川沿い集落における減災

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8.建築物の実作による実践的な建築設計の指導	2011年～現在	とくらし」（設計） ・「意匠性を考慮した耐震改修プロセスに関する研究」（論文） ・「現代大工道具の編成から見た大工技能に関する研究」（論文） 大学院修士課程1年後期または2年前期に実施される「建築設計総合演習II」「建築設計総合演習III」において、下記の原寸大の建築を履修者全員の協働のもと企画・設計、共同制作。制作のテーマを毎回変え、常に新しい技術、デザインに挑戦する。これらの経験を通して、学生は、詳細部の設計、材料に理解、積算、施工手順、工程管理、構造計画、環境計画などを考慮した、実践的で具体的な設計・施工方法を習得。完成作品は常時キャンパス内の屋外に展示、またはイベント時に展示し、他学年の学生や地域住民に公開している。 当該活動における役割：計画全体を統轄 (1)2011年度「紙管を用いた小屋」 (2)2012年度「竹を使用した茶室」 (3)2013年度「前年度制作した茶室のための水屋」 (4)2014年度「シザーズ型展開構造による折りたたみ可能な建築」 (5)2015年度「折板構造による持ち運び可能なドーム」 (6)2016年度「テンセグリティ構造による塔と建築」
9.教員自ら手本を示すことによる設計指導	2006年4月から現在	学部１年「空間表現応用演習」、学部2～4年「建築設計演習I～V」、大学院修士1～2年「建築設計総合演習I,II,III」の各設計演習では、自ら設計案を作成し、学生に建築設計プロセスやプレゼンテーション技法などの手本を示しながら指導。 該当課題： 空間表現応用「学生会館」(H18年度)、建築設計演習I「木造のｸﾗﾌﾞﾊｳｽ」(H19,20,22年度)、建築設計演習II「レストハウス」(H19～25年度)、建築設計演習III「ﾘｿﾞｰﾄﾎﾃﾙ」(H21,22,28,29年度)、建築設計演習III「２世帯住宅」(H21年度)、建築設計演習IV「集合住宅」(H20年度)、建築設計演習V「病院」(H22年度)、建築設計総合演習I「膜構造を用いた空間構築」(H29年度)、建築設計総合演習IIおよびIII「紙管の住居と集落」(H23～26年度)、建築設計総合演習IIおよびIII「歴史的遺跡の鞘堂」(H27～29年度)
10.実践と理論が有機的に関係する教育の実践	2006年4月から2008年7月	建築学科１年授業「建築法規I」では、単なる法令の解説だけではなく、自らの設計実務経験を活かし、具体的な例を用いて説明。実際の建物を見ながら建築法規を学ぶフィールドワークを企画し、実践的な知識の習得を図った。
2 作成した教科書、教材		
1.学部2年　ＣＡＤ・ＣＧ応用演習I　CADテキスト	2017年6月	ＣＡＤ・ＣＧ応用演習I　CADテキストにおいて、市販の参考書には掲載されていない、詳細な木造屋根のモデリング方法を考案し、学生に配布するテキストに追加。
2.木造構法を理解するための模型教材の作成	2010年6月	在来木造軸組構法を直感的に理解させるために、組み立て解体可能な、木造軸組の模型(縮尺1/5)を手造りで作成。本学建築学科1年「初期演習」や2年「建築設計演習I」で活用。
3.図学を直感的に理解するための模型教材の作成	2006年から現在	３次元図形を2次元表現する複雑な操作を直感的に理解させるための模型(約30種類)を手作りで作成。建築学科1年授業「図学・CAD演習」においてこれらを活用して解説。非常に分かりやすいと学生には好評であっ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		た。毎年、教材模型の追加・改良を検討。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.実施設計を題材にした実践的な設計指導	2011年および2013年	大学院建築学専攻修士課程2年授業「建築設計実務II」では、武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ(一級建築士事務所)を拠点として、実案件を題材とし、現場と並行して基本設計図、詳細図および施工図作成の実務訓練を指導。 指導業績： 2011年度　武庫川学院 栄養科学館 新築計画 2013年度　阪神鳴尾駅計画 建替え計画
4 その他		
1.海外におけるワークショップへの参画	2017年9月11日から2017年9月21日	UNESCO主催のウズベキスタンにおけるワークショップ（UNESCO/Japanese Funds-in-Trust Project on the Support for Silk Roads World Heritage Sites in Central Asia (Phase II): On-site Training Workshop in Uzbekistan）に講師として参加。ワークショップはタシケント、サマルカンド、ヒバの３都市において実施。ドローンにより撮影した静止画像や動画を用いて、遺跡や歴史的建物の３次元モデルの制作や合成動画による景観シミュレーションをするための技術を現地の建築家や考古学者に解説。遺跡や歴史的建物の保存修復、景観保全のための人材育成に貢献。
2.附属高校からの内部進学者対象入学前教育	2017年2月21日および2011年2月5日	内部進学者を対象に入学前教育を担当。 ・2017年2月 「建築とは確かな技術の上に展開する豊かな感性」「建築家の職能とその教育」「建築教育および資格の変革」「欧米型プロフェッショナルスクールの教育事例」など について解説。 ・2011年2月 実際の建築作品や本学科の演習作品を参照しながら、内部と外部の関係、日常と非日常、光と陰影、対立と調和、理想郷など、建築をデザイン・鑑賞する上で役立つキーワードを解説。
3.附属高校SSクラスとの高大連携教育	2016年から2017年	附属高校SSクラスの科学演習実験を担当。 ・2017年6月5日 建築学科説明、設計演習設計講評会見学、設計演習見学 ・2016年5月23日 　橋を作って体感しよう「美と力」 グループに分かれ共同で、折板構造、吊構造、トラス構造、張弦梁のいずれかを用いた紙の橋をつくり、載荷実験を行い強度を競った。
4.SSH生徒対象の講義・演習	2015年7月22日	「2015 サイエンス・コラボレーション in 武庫川」の一環で、建築学科において兵庫県下のSSHの生徒対象に講義・演習を実施。 展開構造の理論解説、シザーズ型展開構造の模型の制作、シザーズ型展開構造の実大構築物の展開体験、構造解析など。 兵庫県立豊岡高等学校、兵庫県立三田祥雲館高等学校、兵庫県立西宮南高等学校、武庫川女子大学附属高等学校から４名が参加。
5.卒業生の建築士資格取得状況調査の実施	2015年から現在	2015年度には建築学科全卒業生に対し、一級建築士資格取得状況のアンケート調査を実施。2016年度以降は、建築技術教育普及センターのHPに掲載される一級建築士合格者リストから本学科卒業生を抽出し、リストを作成。
6.建築学専攻企業説明会の実施	2014年	建築学専攻が独自に実施する建築設計・施工分野の企業説明会（修士課程建築学専攻1年対象）のコーディネート・全体統括

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
7.学部生・大学院生対象インターンシップの実施	2014年	建築学科および建築学専攻が独自に実施する建築分野インターンシップの実施における全体統括、インターンシップの視察
8.武庫川女子大学建築学科建築学専攻作品集 2010・2011	2012年	紙面の共通デザインの作成、原稿作成の統括
9.建築学科５期生（2010～2015）の担任	2010年4月1日2015年3月31日	担任した学生の勉学・生活の指導。 進学・就職などについて学生や保護者と面談。 前・後期の節目ごとに学業成績や勉学に取り組む姿勢などについて保護者に書面で報告。
10.武庫川女子大学建築学科建築学専攻作品集 2009	2010年	紙面の共通デザインの作成、原稿作成の統括
11.武庫川女子大学建築学科建築学専攻作品集 2008	2009年	紙面の共通デザインの作成、原稿作成の統括

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.一級建築士	2006年04月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.UNESCO主催のバーミヤン遺跡の大仏復元に関する日本代表案の作成に参画・会議に参加	2017年8月から現在	UNESCO主催のバーミヤン遺跡の大仏復元に関する会議(T he Future of the Bamiyan Buddha Statued: Technical Considerations & Potential Effects on Authenticity and Outstanding Universal Value A scietific tech nical closed meeting 9月28日,29日)に、日本代表グループの一員として参加。日本のプロポーザル案の作成 補助、CG透視図作成を担当。
4 その他		
1.国際会議の企画・運営	2016年7月および2014年7月	武庫川女子大学主催の国際会議「International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road」（第４回2016年7月、第２回2012年7月）を企画・運営 主な担当（ポスター・チラシの作成、HPデザイン、会場のレイアウト、スタッフ配置計画、案内サインの作成）
2.甲子園会館ライトアップイベントの企画・運営	2016年から現在	2016年度より、上甲子園キャンパスにおけるライトアップイベントの中核メンバーとして参画。 主な担当業務（案内サインの作成・接地、　各種ポスターの作成、　照明器具の管理・配置計画統括　）
3.高校への出前授業等	2009年から現在	下記の高校において建築分野の進学説明会または模擬授業を実施。 「建築とは確かな技術の上に展開する豊かな感性」「建築家の職能とその教育」「建築教育および資格の変革」「欧米型プロフェッショナルスクールの教育事例」などについて解説。 2017年3月　山陽女子高校 2016年6月　大阪府立泉陽高校 2014年11月　兵庫県立芦屋高校 2013年11月　兵庫県立芦屋高校 2012年11月　大阪女学院高校 2012年7月　雲雀ヶ丘学園高校 2011年10月　大阪女学院高等学校 2010年6月　甲南女子高等学校 2009年11月　大阪府立鳳高等学校 2009年10月　大阪市立東高等学校 2009年3月　福井県立若狭高等学校
4.建築学科新入生対象のアンケート	2008年4月から現在	建築学科新入生対象のアンケート作成、実施、集計、考察
5.広報入試委員	2006年4月1日から現在	学科開設年度2006年度から現在まで一貫して広報入試委員を担当し、

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
6.広報入試関連の業務（広報入試委員の業務以外）	2006年から現在	・中央キャンパスにおける入試運営業務 ・入試判定案検討 ・各地で行われる入試相談会 などに従事。 広報入試委員の業務以外にも下記の広報入試関連業務に従事。 (1)上甲子園キャンパスにおけるオープンキャンパスおよび入試実施計画の作成、運営統括（2006年～現在） (2)学科広報のためのリーフレットを作成し、高校生にダイレクトメールで送付（2016年1月、2017年6月） (3)「キャンパスガイド2018」の表紙共通デザインを作成（2018年8月） (4)附属中高の教員と建築学科の協議の場を設け、附属中高教員対象の建築学科講評会の見学会を実施。内部進学学生の成績の追跡調査結果などについて報告し、附属高校における進路指導や数学・物理の教育について助言。建築学科が求める生徒像の共通理解。(2017年) (5)大学院建築学専攻を広報するためのパンフレットを作成（2015年3月）
7.予備校講演会	2005年から現在	予備校生を対象とした建築学講演会を計画・実施し、建築学科を広報（講演は岡崎学科長による） 2005年度 15校、2006年度 11校、2007年度 13校、2008年度 12校、2009年度 7校、2010年度 8校、2011年度 4校、2012年度 2校、2013年度 4校、2014年度 4校、2015年度 2校、2016年度 3校、2017年度 2校
8.高校訪問	2005年から現在	高校訪問を計画(訪問校の選定)・実施し、建築学科を広報。 学科全体の訪問数（2005年度281校、2006年度238校、2007年度282校、2008年度123校、2009年度196校、2010年度162校、2011年度61校、2012年度78校、2013年度146校、2014年度148校、2015年度76校、2016年度48校、2017年度55校） 本人の訪問数（2005年度106校、2006年度35校、2007年度47校、2008年度31校、2009年度26校、2010年度17校、2012年度5校、2013年度12校、2014年度12校、2015年度6校、2016年度5校、2017年度5校）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究	単	2003年3月	京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻	一階述語論理上で帰納学習を行う、帰納論理プログラミング（ILP）システムを用いて、居住空間構成法による作品の空間構成過程を分析し、複雑で認識不可能な構成過程に潜むパターンを発見する手法を考案。この手法を用いて、建築系および非建築系の学生による建築空間の構成過程の諸特徴について考察。
3 学術論文				
1.A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING（査読付	共	2017年3月	Archi-Cultural Interactions through the Silkroad, 4th International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya,	The characteristics of row house facades in the alley in Karahori, Osaka, Japan are analyzed using Inductive Logic Programming (ILP), machine learning system that executes inductive reasoning. Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiura 担当：街並のモデル化および記述方法、分析方法の指導。入力データ自動作成プログラムの作成

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
き）			Japan, July 16-18, 2016, Selected Papers, pp.171-178, 2017.3	
2.DESIGN AND FABRICATION OF ORIGAMI DOME（査読付き）	共	2017年3月	Archi-Cultural Interactions through the Silkroad, 4th International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Selected Papers, pp.281-286, 2017.3	本学建築学専攻の演習授業で作成した折板構造によるドームのデザインプロセス、折りたたみ機構の幾何学的特性、温熱性能、構造解析について説明。 N. Sugiura, Y. Nakamura, H. Tagawa, T. Uno, S. Okazaki 担当：プロジェクト全般の設計・施工指導。6章「温熱性能」および7章「構造解析」以外の文章作成。
3.Design of Hanshin Electric Rai lway Naruo Station with Plank Sheets（査読付）	共	2017年1月	Intercultural Underst anding Vol.6, pp.23-30	阪神電車鳴尾駅における、プランクシートをシェルの構造体として用いるために行った構造実験とそれにより最低限の部材によって構成された駅舎の設計について報告した。下地材が不要なプランクシートによって壁と天井が一体となり、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える駅舎空間を実現した。 猪股圭佑，岡崎甚幸，川口衛,田川浩之，杉浦徳利 ,森本順子，山口彩 担当：プロジェクト全般にわたる設計補助（屋根部材料の検討、透視図の作成、動画による景観シミュレーション）および学生への設計指導
4.A STUDY OF THE CHARACTERISTICS OF TRADITIONAL ROW HOUSES' FACADE IN THE ALLEY IN KARAHORI, OSAKA, JAPAN APPLYING INDUCTIVE LOGIC PROGRAMMING（査読付き）	共	2016年11月	Archi-Cultural Interactions through the Silkroad, 4th International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Proceedings, pp. 99-102, 2016.11	The characteristics of row house facades in the alley in Karahori, Osaka, Japan are analyzed using Inductive Logic Programming (ILP), machine learning system that executes inductive reasoning. Yuna Tanaka, Shigeyuki Okazaki, Noritoshi Sugiura 担当：街並のモデル化および記述方法、分析方法の指導。入力データ自動作成プログラムの作成
5.DESIGN AND FABRICATION OF ORIGAMI DOME（査読付き）	共	2016年11月	Archi-Cultural Interactions through the Silkroad, 4th International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Proceedings, pp. 210-213, 2016.11	本学建築学専攻の演習授業で作成した折板構造によるドームのデザインプロセス、温熱性能、構造解析について説明。 N. Sugiura, Y. Nakamura, H. Tagawa, T. Uno, S. Okazaki 担当：プロジェクト全般の設計・施工指導。「温熱性能」および「構造解析」以外の文章作成。
6.Structural Analysis of	共	2015年5月	Proceedings of International	A deployable structure with scissor-like-element is designed and constructed in architectural design class. In parallel,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Deployable Structure with Scissor-like-element in Architectural Design Class（査読付）			Association for Bridge and Structural Engineering (IABSE) Conference, ES-43, (CD-ROM)	structural analyses are carried out using general finite element analysis program to evaluate the stability of deployable structures considered in the architectural design and determine the configuration of the final product. Hiroyuki TAGAWA, Noritoshi SUGIURA, Shoko KODAMA 担当：プロジェクト全般の設計・施工指導。２章「Architectural design process」を執筆担当
7.A STUDY ON THE SENSE OF DEPTH IN THE VIEW OF ENTSU-JI TEMPLE GARDEN（査読付き）	共	2013年3月	Archi-Cultural Translations Through the Silkroad, Mukogawa Women's University Press, pp.69-76	This paper addressed the relationship between the spatial composition of the scenery of a typical Japanese garden as seen at Entsu-ji Temple and the sense of the depth felt by viewers. First, we modeled the scenery of the Entsu-ji Temple garden as overlapping composition of elements with different directions, forms and textures without monotonous repetition. Then, in experiments, 37 participants compared the original and retouched pictures of the view of the garden and selected the one from which they felt a greater sense of depth. Our results suggest that the following five factors affected their sense of depth: (1) elements of the near view, (2) vertical planes in the foreground that occlude viewer eyesight, (3) vertical lines or planes in the near-middle area that constitute an overlapping composition, (4) amount of near view information, and (5) the frame in the near view. Noritoshi Sugiura and Miyuki Ami 担当：分析対象、実験方法、分析方法の発案。論文全編の文章作成。
8.RELATIONSHIP BETWEEN RULES OF SPATIAL COMPOSITION PROCESS USING ARCHITECTURAL SPACE MONTAGE TECHNIQUE AND TYPICAL EXPRESSIONS OF JAPANESE ARCHITECTURE AND LANDSCAPES（査読付き）	共	2011年10月	Archi-Cultural Translations Through the Silkroad, Bahcesehir University Press, pp.87-97	居住空間構成法および予測的学習を行うILPシステムProgolを用いて、建築系および非建築系大学生の空間構成過程（各14事例）から両系の分類規則を抽出。建築系の規則が表す特徴と日本の伝統的な建築や風景画に見られる空間表現手法（曖昧に囲われた領域、層状の構成など）との類似点を指摘。 Noritoshi SUGIURA, Shigeyuki OKAZAKI 担当：実験の実施、ILPへの入力データの作成、分析・考察、論文全般の文章作成
9.Contrastive Characters of Spatial Composition Process between Architecturally Trained and Untrained Students（査読付き）	共	2011年3月	Bulletin of Institute of Turkish Culture Studies at Mukogawa Women's University “Intecultural Understanding”, vol.1, pp.49-57	居住空間構成法および予測的学習を行うILPシステムProgolを用いて、建築系および非建築系大学生の空間構成過程（各14事例）から両系の分類規則を抽出。両系の規則を比較することにより、空間構成要素の連鎖の拡張方法、基本単位となる幾何学的関連、規則が生じやすい空間構成要素、規則の多様性などに関する対称性を指摘。 杉浦徳利, 岡崎甚幸 担当：実験の実施、ILPへの入力データの作成、分析・考察、論文全般の文章作成
10.Analysis of Architectural Space Composition Using Inductive Logic Programming（査読付き）	共	2002年7月	Artificial Intelligence in Design ’02, Kluwer, Dordrecht, pp. 131-151	居住空間構成法および予測的学習を行うILP(Inductive Logic Programming)を建築デザインプロセスの分析に応用する方法を提案。提案手法を用いて、空間構成の特徴に基づき建築系および非建築系の学生を分類する規則を抽出した。 Noritoshi SUGIURA, Shigeyuki OKAZAKI 担当：実験の実施、入力データの作成、分析・考察、文章全般の作

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
11.帰納論理プログラミングを用いた空間構成過程の解析 -居住空間構成法による空間構成過程における固有な規則の抽出-（査読付き）	共	2001年8月	日本建築学会計画系論文集，第546号，pp.141-148	成 一階述語論理上で帰納学習を行う、帰納論理プログラミング（ILP）を用いて、居住空間構成法による作品の空間構成過程を分析し、複雑で認識不可能な構成過程に潜むパターンを発見する手法を考案。この手法を用いて、統合失調症患者の構成過程の諸特徴を表すいくつかの規則を発見した。 杉浦徳利，岡崎甚幸 担当：実験の実施、入力データの作成、分析・考察、文章全般の作成
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.阪神電車鳴尾（武庫川女子大前)駅 その2 プランクシートの表面温度計測および構造実験	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国）建築デザイン，pp412-413	同題その１の続編。阪神電車鳴尾駅の駅舎設計において、プランクシートをシェルの構造体として用いるために行った構造実験について報告。 山口彩・吉野有里恵・ ボズクルツ ベイザヌル・岡崎甚幸・ 川口衛・宇澤善一郎・猪股圭佑・森本順子・杉浦徳利 担当：プロジェクト全般にわたる設計補助および学生への設計指導
2.阪神電車鳴尾（武庫川女子大前)駅 その1	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国）建築デザイン，pp410-411	一級建築士事務所 武庫川女子大学建築都市デザインスタジオおよび建築学専攻の学生が設計に取り組んだ阪神電車鳴尾駅の駅舎デザインの特徴について報告。下地材が不要なプランクシートによって壁と天井が一体となり、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える駅舎空間を実現。 吉野有里恵・山口彩・ ボズクルツ ベイザヌル・岡崎甚幸・ 川口衛・宇澤善一郎・猪股圭佑・森本順子・杉浦徳利 担当：プロジェクト全般にわたる設計補助および学生への設計指導
3.樋井川の記憶 樹木構造による船着場	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国）建築デザイン，pp278-279	重力により曲げモーメントが発生しない造形が可能な逆さ吊り模型、写真測量、有限要素解析の併用により、意匠と構造が一体となった樹木構造の設計手法の実践例を紹介。日本建築学会大会建築デザイン発表「大自然な空間を生み出す形態: 3次元編」部門において優秀賞を受賞。 江口知里・杉浦徳利・田川浩之 担当：逆さ吊り模型実験方法、構造解析に必要なデータ取得方法、設計指導
4.テンセグリティ構造を用いた原寸大構築物 その2 テンセグリティ構造と膜構造を併用した構築物 Turban Shell	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国）建築デザイン，pp38-39	本学建築学専攻の演習授業で作成した「テンセグリティ構造と膜構造を併用した構築物」のデザインプロセス、構造計画、施工計画について説明。テンセグリティ構造の建築への応用の可能性を提案した。 田中佐弥・川崎祐華・ 堀内環美・野崎奈緒美・前田真季・ 田村早帆・岡崎甚幸・鳥巣茂樹・杉浦徳利・川口衛 担当：プロジェクト全般にわたる設計・施工指導
5.テンセグリティ構造を用いた原寸大構築物 その1 テンセグリティ構造の塔 アルミの塔	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国）建築デザイン，pp36-37	本学建築学専攻の演習授業で作成した高さ8mの「テンセグリティ構造の塔」のデザインプロセス、構造計画、施工計画について説明。 川崎祐華・田中佐弥・ 堀内環美・野崎奈緒美・前田真季・ 田村早帆・岡崎甚幸・鳥巣茂樹・杉浦徳利・川口衛 担当：プロジェクト全般にわたる設計・施工指導
6.建築空間の写真のおける「あっち」と「こっち」の空間分節と居心地 その 1	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)，計画，pp765-766	普段目にしている風景の中で、「あっち」や「こっち」の境界がどこにあると感じるのかを実験により調査し、これらによる分節の認識や空間構成の特徴と居心地の関係を探る。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
:心地良さと風景の構図およびあっちでもこっちでもない領域の関係				塩崎友子・杉浦徳利・田川浩之 担当：分析対象・実験方法・分析方法の指導
7.多層建築を高さ方向に貫く心棒の制振効果 その2 五重塔の塔身を貫く心柱による心棒効果	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)，構造II，pp715-716	木造五重塔において，心柱の設置方式（掘立式，礎石式，初重天井式）の差異に着目し，塔身を貫く心柱による制振効果について検討。 松本優里・田川浩之・杉浦徳利 担当：分析対象およびモデル化方法の検討・指導
8.多層建築を高さ方向に貫く心棒の制振効果 その1 心棒の支持条件による制振効果の違い	共	2017年9月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国)，構造II，pp713-714	多層建物を高さ方向に貫く心棒は，地震時において建物全体に安定性を与える。心棒の支持条件をピン支持から完全固定に変えた場合に心棒効果にどのような違いが生じるかを定量的に検討した。 田川浩之・松本優里・杉浦徳利 担当：モデルの検討
9.逆さ吊り模型実験による自由曲面シェルを支える樹木構造の造形	共	2017年9月	日本建築学会学術講演梗概集（中国）構造I，pp1017-1018	設計者が思い描いたデザインをそのまま実現させることが難しい樹木構造について，古典的な逆さ吊り模型実験を行うことにより，軸力抵抗型の合理的な形態を得ることを試みた．縮小モデルでは小さな曲げに留まっているが，実寸大の建築設計を検討する際には，スケール効果による応力の増大に留意する必要があることなどが明らかになった． 江口知里・田川浩之・杉浦徳利 担当：設計指導、実験方法・データの作成方法の指導
10.テンセグリティ構造を用いた原寸大構築物	共	2017年6月	日本建築学会近畿支部研究報告集	B.Fullerが提唱したテンセグリティ構造は、圧縮材が連続しないため浮遊感のある美しさが印象的であるが、その構造的特徴から建築への応用例は少ない。武庫川女子大学院建築学専攻修士課程 1年の学生8人が設計演習の授業において、約二ヶ月半をかけ、テンセグリティ構造を用いた原寸大構築物を企画・制作し、同構造の建築への応用の可能性を模索した。その成果について説明。 川崎祐華，田中佐弥，田村早帆，前田真季，堀内環美，野崎奈緒美，岡崎幸甚，鳥巣茂樹，杉浦徳利，川口衛，井ノ口果穂，帯辺菜穂 担当：プロジェクト全般にわたる設計・施工指導
11.帰納論理プログラミングを用いた路地の街並みにおける長屋のファサードの空間構成の特徴　大阪市空堀地区を対象として	共	2016年8月	日本建築学会学術講演（関東）都市計画，pp.871-872	機械学習の枠組みの一つである帰納論理プログラミング(ILP)を用いて路地の街並みを分析する手法を提案する。大阪市空堀地区の路地に面する各建物のファサードを奥行きの概念も含めた 3 次元モデルとして記述することにより、ファサードの構成要素の立体的な関係性を表すいくつかの規則が得られた。 田中 佑奈，岡崎 甚幸，杉浦 徳利 担当：街並のモデル化および記述方法、分析方法の指導。入力データ自動作成プログラムの作成。
12.シザーズ型ならびに折板型展開構 造の有限要素法に基づく構造解析	共	2016年6月	日本建築学会近畿支部 研究報告集、第56号 、pp.105-108	シザーズ型ならびに折板型展開構造の有限要素法に基づく構造解析について説明した。 田川浩之、杉浦徳利、中村優花、児玉章子、岡崎甚幸 担当：プロジェクト全般にわたる設計・施工指導
13.ブラウジング行為と書架配置および配架方法との相関 ： 図書のブラウジングに関する研究 その2	単	2015年9月	日本建築学会学術講演会（関東）建築計画，第2015号，pp.513-514，2015年9月	書架を配置した実験空間において図書のブラウジング実験を行った。その結果を統計的に分析することにより、書架配置と図書の陳列方法とブラウジング中の行為についていくつかの相関関係を発見した。 竹本 桂，杉浦 徳利 担当：実験方法、分析方法の指導
14.ブラウジング実験の概要および選定され	共	2015年9月	日本建築学会学術講演会（関東）建	図書との予期せぬ出合いを促すような書店の設計を目標に据えつつ、書架配置と図書の陳列方法がブラウジング行為にどのような影

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
た図書の特徴 ： 図書のブラウジングに関する研究 その1			築計画，第2015号，pp.511-512，2015年9月	響を与えるのかを実験を通して検討する。ここでは、書店におけるブラウジング行為のモデル化、図書の配架方法や書架の配置とブラウジング行為の関係を探る為の実験の概要、実験中のブラウジング行為を図式的に表現する方法について説明した。また、実験において書架配置や陳列方法が予期せぬ図書との出合いに影響したかを考察した。 杉浦 徳利，竹本 桂 担当：実験方法、分析方法の指導、文章作成
15.シザーズ型展開構造による傘の設計と解析 ： その2 シザーズ展開傘の構造解析	共	2015年9月	日本建築学会学術講演梗概集（関東）構造I，PP.717-718，2015年9月	「シザーズ型展開構造による傘」と通常傘の構造解析を実施し，それらの結果の比較を通して構造安定性を検討した。 田川 浩之，児玉 章子，杉浦 徳利 担当：設計・施工指導
16.シザーズ型展開構造による傘の設計と解析 ： その1 シザーズ展開傘の設計概要	共	2015年9月	日本建築学会学術講演梗概集（関東）構造I，PP.717-718，2015年9月	展開構造物とは小さく折り畳んだ状態から大きく展開して利用する組立式構造物である。これを応用して仮設の東屋として使用できる「シザーズ型展開構造による傘」を提案する。その概要と展開過程のシミュレーションについて説明する。 児玉 章子，田川 浩之，杉浦 徳利 担当：設計・施工指導
17.シザーズ型展開構造による傘	共	2015年9月	日本建築学会建築学術講演梗概集（関東）建築デザイン，pp.222-223， 2015年9月	シザーズ型展開構造による傘のデザインについて説明した。 児玉章子、杉浦徳利、田川浩之 担当：設計・施工指導
18.書架配置と図書の陳列方法とブラウジングに関する研究	共	2015年6月	日本建築学会近畿支部研究報告集．環境系，第55号，pp105-108，2015年6月	図書との思わぬ出合いを促すような書店の設計を目標に据えつつ、書架配置と図書の陳列方法がブラウジング行為にどのような影響を与えるのかを考察。 竹本桂，杉浦徳利 担当：実験方法、分析方法の指導
19.シザーズ型展開構造による野外仮設テントの構造解析	共	2015年6月	日本建築学会近畿支部 研究発表会、第55号・構造系、Pp.289-292	シザーズ型展開構造による野外仮設テントの構造解析について説明した。 田川浩之、児玉章子、杉浦徳利 担当：プロジェクト全般における設計・施工の指導
20.山と川および橋を含む風景写真の印象評価に関する研究	共	2014年9月	日本建築学会学術講演（近畿）都市計画，第2014号，pp.323-324，2014年9月	山、川、橋を含む風景に着目し、SD法と因子分析を用いて、その写真の印象評価に影響を及ぼす潜在的な概念を探る。 杉浦 徳利，松浦 聖子 担当：分析対象、実験方法、分析方法の指導
21.円通寺庭園における奥行き感に関する研究	共	2012年9月	日本建築学会学術講演(東海)建築計画，第2012号，pp.831-832，2012年9月	円通寺庭園のオリジナル写真と合成写真の奥行き感の強弱を比較する実験を行うことにより、風景を構成する要素および配置が、風景の奥行き感にどのような影響を果たしているかを詳細に探る。 杉浦 徳利，大谷 孝彦，西野 佐弥香 担当：分析対象、実験方法、分析方法の指導、文章作成
22.路地の空間特性と近所付き合いの関係 ―西宮市上鳴尾町を対象として―	共	2012年9月	日本建築学会学術講演梗概集（東海） ,都市計画，pp.533-534	国内の既存の路地の大部分を占めると思われる、特殊な歴史的背景や形態は持たない路地、特に「兵庫県西宮市上鳴尾の路地」に焦点を当て、空間構成や使われ方をスケッチと実測により調査し、空間特性と近所付き合いの関係を探る。 川崎祐華、大谷孝彦、杉浦徳利、西野佐弥香 担当：調査方法、分析方法の指導
23.西条酒蔵通りの景観イメージと景観評価 -地域性に基づく景観構成の研究-	共	2011年8月	日本建築学会学術講演梗概集（関東）,F-1，pp.335-336	江戸時代には山陽道の宿場町として栄え、現在も多くの酒造会社が軒を連ねる東広島市の西条酒蔵通りの景観に対する地域住民の意識調査を行った。その結果、煉瓦造りの煙突などを効果 的に用いた景観構成や、これまでの酒蔵主導のスポット型のまちづくりの問題点

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				など、今後のまちづくりの方向性を示唆するいくつかの知見が得られた。 共著者：髙原麻由子，大谷孝彦，萬田隆，杉浦徳利
24.多変量解析を用いたプライバシー評価の要因の分析　同一の戸建住宅に居住する主婦及び非主婦女性のプライバシー評価に関する研究　その３	共	2008年09月	日本建築学会学術講演梗概集（中国），E-2，pp. 129？130	娘／親の違い、年代、在宅時間、家族室／私的な室の違い、プライバシー確保が優先される室などに着目し、主婦・非主婦のライフスタイルの違いによるプライバシー評価の差異を考察。 共著者：榊原潤、穴瀬徳子、杉浦徳利
25.主婦・非主婦のライフスタイルの違いによるプライバシー評価の差異　同一の戸建住宅に居住する主婦及び非主婦女性のプライバシー評価に関する研究　その2	共	2008年09月	日本建築学会学術講演梗概集（中国），E-2，pp. 127？128	プライバシー確保について満足か不満足かの評価を目的変数とし、年齢層、在宅時間、住宅の敷地面積や庭配置、建物の平面形などを説明変数」とした数量化理論II 類による分析を行った。主婦と非主婦の違い対象空間の違い（家族室、私的な室、庭）によって傾向が異なることを示した。 共著者：杉浦徳利、穴瀬徳子、榊原潤
26.主婦・非主婦の、敷地及び住宅の物理的状況に関するプライバシーの不満要因　同一の戸建住宅に居住する主婦及び非主婦女性のプライバシー評価に関する研究　その1	共	2008年09月	日本建築学会学術講演梗概集（中国），E-2，pp. 125？126	同一住宅に居住する主婦及び非主婦に自宅におけるプライバシー確保に関するアンケート調査を実施。敷地と住宅の物理的状況（敷地面積、接道数、塀の配置、住戸平面形状、玄関の位置など）に関するプライバシー不満度とその要因を考察。 共著者：穴瀬徳子、榊原潤、杉浦徳利
27.非建築系学生による空間構成過程の類型 -帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究 その4-	共	2005年8月	日本建築学会学術講演梗概集（中国），E-1，pp. 1175？1176	非建築系学生による空間構成過程の分類規則の被覆率を利用して空間構成過程をクラスタリングし、各クラスターを特徴付ける規則の共起関係を、記述的学習を行うILPシステムである WARMR を用いて抽出。非建築系学生による14 個の空間構成過程から、「物体の I 字形連 結を基調とし、直線的に連鎖を拡張していく空間構成過程」など３つの類型が得られた。 共著者：杉浦徳利、岡崎甚幸
28.建築系学生による空間構成過程の類型 -帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究 その3	共	2004年08月	日本建築学会学術講演梗概集（北海道），E-1，pp. 1117？1118	建築系学生による空間構成過程の分類規則の被覆率を利用して空間構成過程をクラスタリングし、各クラスターを特徴付ける規則の共起関係を、記述的学習を行うILPシステムである WARMR を用いて抽出。建築系学生による14 個の空間構成過程から、「左右への方向性、要 素の連結を基調として関係構造を拡張していく空間構成過」など4つの類型が得られた。 共著者：杉浦徳利、岡崎甚幸
29.戎橋デザインコンペ	共	2003年9月		岡崎甚幸、陶器浩一、<u>杉浦徳利</u> 担当：案の作成、CG透視図の作成、紙面レイアウト
30.建築系および非建築系グループに固有な空間構成過程の対照性 -帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空間構成過程の研究 その2	共	2003年9月	日本建築学会学術講演梗概集（東海），E-1，pp. 1087？1088	建築系および非建築系学生の空間構成過程の分類規則および帰納学習による情報の圧縮率および規則の予測精度を比較することにより、空間構成要素の連鎖の拡張方法、基本単位となる幾何学的関連、規則が生じやすい空間構成要素、規則の多様性などに関する対称性を指摘。 共著者：杉浦徳利、岡崎甚幸、横田隆司
31.建築系および非建築系グループに固有な空間構成過程の特徴 -帰納論理プログラミングを用いた居住空間構成法による空	共	2003年9月	日本建築学会学術講演梗概集（東海），E-1，pp. 1085？1086	居住空間構成法および予測的学習を行うILPシステムProgolを用いて、建築系および非建築系学生の空間構成過程（各14事例）から両系の分類規則を抽出。規則を解釈し、各グループに固有な空間構成過程の特徴（建築系：「道具のL字形分離による緩やかな囲いの構成」など　非建築系：「家具やマット状の道具の近傍配置」など）を指摘。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
間構成過程の研究 その1				共著者：横田隆司、岡崎甚幸、杉浦徳利
32.帰納論理プログラミングを用いた風景画鑑賞時の注視行動の分析	共	2002年8月	日本建築学会学術講演梗概集（北陸），E-1，pp. 791-792	アイカメラおよびILPシステムを用いて、注視行動を抽出し、その規則を発見する手法を提案。この手法を用いて、西洋由来の一点透視図法に忠実に則った風景画と、一点透視図法に影響を受けつつも日本古来からある多視点的な表現が混在した風景画の鑑賞時の注視行動の差異を分析・考察。 杉浦徳利，岡崎甚幸，守山敦子 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
33.ILPを用いた風景画の鑑賞時における注視行動パターンの発見	共	2002年5月	電子情報通信学会技術研究報告，ヒューマン情報処理研究会(HIP)，Vol.102，No. 44，pp.1-5	アイカメラおよびILPシステムを用いて、注視行動を抽出し、その規則を発見する手法を提案。この手法を用いて、西洋由来の一点透視図法に忠実に則った風景画と日本古来からある多視点的な表現の風景画、前述２つの表現方法が折衷した風景画の鑑賞時の注視行動の差異を分析・考察。 杉浦徳利，守山敦子，岡崎甚幸 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
34.帰納論理プログラミングを用いた建築空間の構成過程の分析	共	2001年9月	人工知能学会人工知能基礎論研究会資料（第45回），pp.1-7	居住空間構成法による空間構成過程をモデル化し、帰納論理プログラミングを用いて分析する手法を提案。このシステムを用いて建築系および非建築系学生の空間構成過程（各7事例）を分析。 杉浦徳利，岡崎甚幸 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
35.居住空間構成法による空間構成過程の研究 -その２　空間構成過程の類似度に基づく作品のクラスタリング-	共	2000年9月	日本建築学会学術講演梗概集（東北），E-1，pp. 965-966	同題その１の続編。ILPシステムProgolの帰納学習による情報量の圧縮率を空間構成過程の類似度とみなすことにより、居住空間構成法による作品をクラスタリングする手法を提案。この手法を用いて幼稚園児の居住空間構成法による作品をクラスタリングし、「壁や間仕切を多用し、比較的多くの道具を規則的に関係づける」などの３つの類型を得た。 杉浦徳利，岡崎甚幸，須貝成芳 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
36.居住空間構成法による空間構成過程の研究 -その１　空間構成過程の記述法と規則の抽出方法-	共	2000年9月	日本建築学会学術講演梗概集（東北），E-1，pp. 963-964	居住空間構成法による空間構成過程をモデル化し、帰納論理プログラミングを用いて分析する手法を提案。このシステムを用いて建築系および非建築系学生の空間構成過程（各7事例）を分析。 杉浦徳利，岡崎甚幸 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
37.分裂病者の居住空間構成法による空間構成過程から規則を抽出するシステム	共	1999年9月	日本建築学会学術講演梗概集（中国），A-2，pp. 453-454	統合失調症患者を対象に居住空間構成法の実験を実施。完成作品が直感的に似ていると思われる2事例を採り挙げて、予測的学習を行うILPシステムProgolを用いて分類規則を抽出した。この結果、直感的観察から得られる特徴に相当する規則を抽出できた。さらに直感的な観察のみでは発見困難であった、一見類似する２事例間の潜在的な相違点も抽出された規則から読みとることがてきた。 杉浦徳利，岡崎甚幸，柳沢和彦，穂積輝明 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
38.居住空間構成法による作品の制作過程から規則性を抽出するシステム	共	1999年	日本建築学会近畿支部研究報告集 第39号 計画系，pp. 217-220	居住空間構成法を用いた空間構成過程を、道具の種類、長さ、角度、色、幾道具間の関係の6項目により定式化し、一階述語論理で記述する方法を提案。統合失調症患者の居住空間構成法による空間構成過程（1事例）を、ILPシステムを用いて分析。この結果、直感的観察から得られる特徴に相当する規則を抽出できた。さらに直感的な観察のみでは発見困難であった、特徴同士の関係も読みとることができた。 杉浦徳利，穂積輝明，岡崎甚幸，柳沢和彦 担当：分析システムの構築、データの分析、執筆作業全般
39.探索歩行実験における空間図式の形式過程に関する研究 -コンピュータグラフィックスによる仮想迷路空間における探索歩行の研究 その３-	共	1996年9月	日本建築学会学術講演梗概集（近畿），pp.849-850	仮想迷路空間内を探索歩行するためのシミュレータをコンピュータグラフィックスを利用してパソコン上に構築。これを用いて探索歩行実験を行った。被験者が実験後に作成したイメージマップ、覚えている風景のスケッチ、実験後のヒアリング、実験中の発話などを総合的に分析し、被験者が迷路空間を把握しイメージマップが体制化されるプロセスの特徴を考察。 杉浦徳利，野村昭仁，松下 聡，岡崎甚幸 担当：データの分析、執筆作業

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.S邸新築工事	単	2015年12月竣工		所在地：兵庫県西宮市 担当：設計、監理
2.花山天文台 将来構想	共	2015年から現在		京都大学附属の花山天文台の改修・再整備プロジェクトに参画。 岡崎 甚幸、杉浦徳利、天畠秀秋、山口彩、川崎祐華 担当：案の作成、CG透視図の作成、CG動画による景観シミュレ ーションなど
3.Hisham's Palace Project	共	2015年		パレスチナにあるヒシャム宮殿遺跡の覆屋プロジェクト に参画。 岡崎甚幸、杉浦徳利、山口彩、川崎祐華 担当：案の作成、CG透視図の作成、CG動画による景観シミュレ ーションなどを担当
4.Bamiyan Museum & Culture Center for People Project	共	2013年から現在		アフガニスタンにあるバーミヤン大仏遺跡の文化センターおよび博物館建設プロジェクトに参画。 岡崎甚幸、杉浦徳利、柳沢和彦、鈴木利友、天畠秀秋、宇野朋子、伊勢文音、本郷佑奈、森本順子、山口彩 担当： 案の作成、CG透視図の作成、CG動画による景観シミュレ ーションなど
5.Petra Museum Project	共	2013年		ヨルダンにあるペトラ遺跡の博物館設計プロジェクトに 参画。 岡崎甚幸、杉浦徳利、鈴木利友、天畠秀秋、猪股圭佑、伊勢文音、本郷佑奈、森本順子、山口彩 担当：案の作成、CG透視図の作成、CG動画による景観シミュレ ーションなど
6.阪神鳴尾駅改修プロジェクト	共	2012年から2015年		阪神鳴尾駅改修プロジェクトの基本構想から基本設計に参画。 岡崎甚幸、川口 衛、杉浦徳利、猪股圭佑、森本順子、山口 彩 担当：案の作成、CG透視図の作成、動画によるシミュレーショ ンなど
7.京都府総合資料館(仮称)設計工事基本・実施業務に係る公募型設計競技	共	2011年6月		武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ(杉浦徳利 在籍) 担当：案の作成、CG透視図の作成
8.旧ソ連による戦後強制抑留、引揚に伴う死没者のための慰霊碑建設デザインコンペティション	共	2009年9月から2009年10月		佳作受賞。 株式会社昭和設計、武庫川女子大学(岡崎甚幸、吉田博 宣、大井史江、柳沢和彦、杉浦徳利、天畠秀秋、森本順子) 担当：案の作成、CG透視図の作成
9.S邸新築工事	単	2009年2月竣工		所在地：愛知県半田市 担当：基本設計
10.第1回 JIAKINKI U-40 設計コンペティション「六甲山上の展望台」	共	2008年10月から2008年11月		武庫川女子大学(大井史江、杉浦徳利) 担当：案の作成、CG透視図の作成
11.武庫川女子大学 生活環境学部 建築学科 建築スタジオ基本設計	共	2007年3月竣工		所在地：兵庫県西宮市 岡崎甚幸、杉浦徳利、天畠秀秋、日建設計 役割：設計監修補助
12.武庫川女子大学 甲子園会館 改修工事	共	2006年3月竣工		所在地：兵庫県西宮市 岡崎甚幸、杉浦徳利、天畠秀秋、竹中工務店 担当：設計監修補助
13.福井県南越地区養護学校建設工事	共	2005年3月竣工		所在地：福井県武生市 福井県設計監理協会、岡崎甚幸，京都大学岡崎研究室(杉浦徳利 在籍) 担当：設計監修補助
14.武庫川学院 学術研究交流館建設工事	共	2005年3月竣工		所在地：兵庫県西宮市 岡崎甚幸，武庫川女子大学管理部管理課(杉浦徳利 在籍)、竹中工務店 担当：設計監修補助
15.武庫川学院附属中	共	2005年2月竣		所在地：兵庫県西宮市

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
学・高校北特別棟改修工事		工		岡崎甚幸，武庫川女子大学管理部管理課(杉浦徳利 在籍)、大林組 担当：設計監修補助
16.武庫川学院附属中学・高校 渡り廊下建設工事	共	2005年2月竣工		所在地：兵庫県西宮市 岡崎甚幸，武庫川女子大学管理部管理課(杉浦徳利 在籍)、竹中工務店 担当：設計監修補助
17.武庫川女子大学 健康科学館建設工事	共	2004年9月竣工		所在地：兵庫県西宮市 岡崎甚幸，武庫川女子大学管理部管理課(杉浦徳利 在籍)、竹中工務店 役割：設計監修補助
18.戎橋デザインコンペ	共	2003年9月竣工		岡崎甚幸、陶器浩一、杉浦徳利 担当：案の作成、CG透視図の作成、紙面レイアウト
19.真宗寺 客殿及び庫裡増築工事	共	2002年8月竣工		所在地：福井県鯖江市 岡崎甚幸,京都大学岡崎研究室(杉浦徳利 在籍) 担当：設計補助
20.真宗寺 本堂改修工事	共	2000年11月竣工		所在地：福井県鯖江市 岡崎甚幸，京都大学岡崎研究室(杉浦徳利 在籍) 担当：設計補助
21.O邸増築工事計画案	共	2000年11月		所在地：岡山県岡山市 岡崎甚幸，杉浦徳利 担当：設計補助
22.福山市伏見町商店街再開発計画案	共	1999年12月		所在地：広島県福山市 岡崎甚幸，京都大学岡崎研究室(杉浦徳利 在籍) 担当：設計補助
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.豊な自己実現のためのデザイン科学	単	2006年12月	第29回日本建築学会情報・システム・利用・技術シンポジウム研究集会「デザイン科学のフレームワーク」資料	過去の知的CADに関連する研究が、デザイン行為に関する知識や操作の形式的な側面、建築の工学的な側面に偏っていたことを指摘し、建築デザインの支援および教育において、人間が無意識的に持っている暗黙知や空間図式なるものを探ることの重要性を説明。その試みの一例として、ILPを用いて空間構成過程の潜在的規則を探ろうとする自身の研究を紹介。
2.空間構成過程の解析への帰納論理プログラミングの応用	単	2003年9月	日本建築学会全国大会（東海）情報システム技術部門研究協議会（「ユビキタス時代における建築・都市の変容と論理」）資料，pp.25-26	これまでブラックボックスと見なされてきた、建築設計初期段階における空間イメージを具現化するプロセスで参照される暗黙知を探る有効な手段として、帰納論理プログラミングを紹介。この手法を建築分野への応用例として自らの専攻研究を解説。 計算機科学に依拠した新しいタイプの数理的・論理的モデルに基づく研究を遂行する新進研究者の１人として、上記協議会におけるパネルディスカッション（テーマ「建築研究における知的システムと複雑系」）のパネリストに指名された。
６．研究費の取得状況				
1.耐震壁とフラットスラブから構成される欧米型RC厚肉床壁構造の非線形有限要素解析	共	2017年	日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究基盤（C）	連層耐震壁・鉛直荷重支持壁柱・フラットスラブから構成されるRC厚肉床壁構造である武庫川女子大学建築学科の新校舎「建築スタジオ」を対象に、詳細な非線形有限要素解析を実施し、その地震時挙動ならびに耐震信頼性を定量的に評価する。実務設計者から強い要望があるものの、設計手法が十分に確立されていないRC 厚肉床壁構造に対して、非線形有限要素法に基づく信頼性の高い設計手法を提案し、わが国での広い普及に貢献する。 田川浩之、杉浦徳利（研究分担者として参画） 役割：建築設計・計画の立場 から RC 厚肉床壁構造における耐震壁の構成等に関して検討を行う。また「建築スタジオ」の実測ならびに設計図書を参照し、3D形状データを作成する。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2011年4月から2013年3月	日本建築学会 情報システム技術委員会 デザイン科学応用研究小委員会 委員
2.2005年4月から2010年3月	日本建築学会 情報システム技術委員会 デザイン科学小委員会 委員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
3.2002年4月から2004年3月	日本建築学会 知的システム研究小委員会 人工知能ディレクトリ構築ワーキンググループメンバー